

信州大学 教育学部 同窓会報

信州大学教育学部同窓会報

【第14号】

発行人 中田 育成
事務局 長野市西長野6ノロ
信州大学教育学部
教育実践総合
センター内
TEL (026) 238-4370



二十一世紀への始動を

同窓会会長 中田 育成

西暦二千年という、人の一生を遙かに超える悠久の時の流れの中の「ミレニアム」と言われる本年は、二十世紀最終年でもあります。来るべき二十一世紀へ向けて、我らが同窓会も大事な節目として行かなければならないと思います。

昨年度は、学部創立五〇周年記念式典が、記念事業実施委員の方々による長期にわたる周到な準備の上に、本号でも特集されている数々の内容が、節目の意義を感じ合ったり、形あるものとして遺されたりして、歴史の実感を分かち合いました。

同窓会の皆様方からは、尚学会と共に後援させていただいた記念事業募金へ、当初の募金目標額を遙かに超えるお力添えをいただきました。母校に寄せられる思いの強さを有り難く頂戴いたし、記念行事へ予定額を、さらに学部後援金として応分額、併せて九百万円余を納めさせていただきました。また、記念行事の一環として刊行された

「卒業生名簿」は、大変なデータ整理のご苦労がありました。是非、同輩はじめ先輩後輩の絆を結び合うものとして、活用いただきたいと思います。

同窓会運営の新しい形としては、学生数減少による厳しい財政事情を少しでも解消し、活動を円滑に遂行するために、新入学生から新たに入会金をいただくことを十一年度の総会において決定いただきました。さらに事務局の運営については、これまで学部出身の教官の皆様方に、本来の仕事以外に同窓会運営の様々なご苦労をお掛け申し上げてきたわけですが、専門の事務局長を置いて、従来の幹事長・庶務の業務に携わってもらう時期ではないかということ、早急な検討課題となっております。

学部におきましては、五〇周年の節目である平成十一年度より、抜本的な学部改革をされ、様々な教育課題に対応できる新課程で歩み出されてい

ます。同窓会といたしましては、向学の志に燃えた優れた人材が、精一杯学ぶことができるよう更なる支援をしてまいりたいと念じています。

第七期同窓会役員名簿 (平成十一年八月〜十三年八月)

| | | | | | |
|------|-----------|----------|-------|-------|-------|
| 名譽会長 | 藤沢謙一郎 | 顧問 | 松橋 英幸 | 倉田 稔 | 新井 好仁 |
| 会長 | 中田 育成 | 清水 正 | 矢嶋 直徳 | 佐野 昌男 | |
| 副会長 | 村田 弘之 | 藤綱 孝子 | 中田 宣彦 | | |
| 監事 | 清水 厚実 | 丸山 恒男 | | | |
| 本部長 | 島田 孝司 | 古川 玲子 | 杵渕 恭宏 | | |
| | 和田 清 | 渡辺 時夫 | 野口 宗雄 | | |
| | 赤羽 貞幸 | 上條 厚 | 別府 桂 | | |
| | 斎藤 忠彦 | | | | |
| 地区理事 | 下伊那 清水 貫司 | 上伊那 金井 健 | | | |
| | 諏訪 北沢 久史 | 木曾 楯 誠治 | | | |
| | 北安曇 松下 寛 | 南安曇 宮沢 敏 | | | |
| | 松本 青木 教司 | 佐久 佐藤 洋一 | | | |
| | 上小 市村 芳紹 | 更埴 滝沢 一男 | | | |
| | 上水内 小林 建夫 | 上高井 吉田 悟 | | | |
| | 下高井 山崎 東一 | 飯水 金井 芳久 | | | |
| | 塩筑 市川 祥介 | 長野 小島 一男 | | | |
| | 長野 若林 利博 | 高野 春日 一俊 | | | |
| | 高校 池田 實 | 県外 成田 秀和 | | | |
| | 県外 塚田 亮 | 県外 伴 健利 | | | |
| 幹事 | 和歌月 健人 | 竹村 通子 | 滝沢 裕子 | | |
| | 土屋 良一 | 塩沢 崇 | 久保 信男 | | |
| 事務局員 | 中村 浩志 | 岩田 靖 | | | |
| | 伴 真理子 | | | | |

第十二回同窓会通常総会報告

平成十一年度の通常総会は、定例日である八月十一日(水)、長野市のホテル信濃路において出席者四一名を得て開催された。

古川玲子副会長の開会宣言に始まり、佐野昌男会長の挨拶。議長団に和歌月健人・小島一男の両会員を、議事録署名人に春日俊一・竹村通子両会員を選出。書記に和田清会員を任命して議事に入り、次の四案が審議された。

○第一号議案

平成十年度事業報告、歳入歳出決算報告および財産目録の承認に関する件。

久保信男幹事長より事業報告、杵渕恭宏会計幹事より会計報告が総会資料に基づいて説明され、また清水厚実監事より「適正に処理されている」との監査報告を受け、全会一致で承認された。

○第二号議案

平成十一年度事業計画書(案)および歳入歳出予算書(案)の承認に関する件。

幹事長および会計担当幹事から資料に基づいて説明があり、原案通り可決承認された。

○第三号議案

会計制度の見直しと会則一部改正に関する件。幹事長より配布資料に添って提案理由と会則改正についての説明があり、種々検討の結果、平成十二年度入学生から終身会費と入会金を納入するとの会則改正が決定された。

○第四号議案

第七期役員の改選、任期の確認に関する件。議長より会長選出について諮られ、中田育成氏が選出された。
②中田新会長から村田弘之・藤綱孝子・中田宣彦

氏が副会長に、また配布資料によって各理事が推薦され、全会一致で承認された。

③中田新会長から和歌月健人会員ほか七名の幹事が委嘱された。

④監事の選出について諮られ、清水厚実・丸山恒男会員が選出された。

中田新会長より藤沢学部長の名誉会長への推薦、佐野前会長の顧問就任の披露等、新役員の紹介があり、第十一条に則り、役員任期が確認された。

議事終了後、中田育成新会長の挨拶に続き、臨席の藤沢学部長から学部後援への謝辞と祝辞をいただいた。

○平成十一年度事業大綱
一、会誌発行 「第十三号」会員・入会者へ発送

二、研究助成 学内留学生後援会へ拠出

三、学部後援 学部・大学院の充実援助

四、組織充実 会費納入会員の拡充

五、長期構想 同窓会会計制度の検討・会則改正

六、名簿刊行 学部五〇周年を記念しての刊行

七、大学後援 信州大学五〇周年(本部・学部)の記念事業に協力 「後援会設置」

講演会 本学部教授 土井 進先生 「『信大YOU遊サタデー』がめざすもの」 「信大YOU遊サタデー」は、全国の教員養成系大学・学部の中でも大きく注目されている。またこれが文部省の「フレ

ンドシップ事業」として予算化されることとなり、本学部での土井先生のご尽力は大きいものがある。

「講演要旨」

「YOU遊サタデー」の意義は、共に生きる連帯感や人を出迎える体験を積み上げるなど、教員としての資質を高める大切な経験の場となっていることであると語られた。先生が用意された活動体験のビデオによりながら、演題の内容をじっくりと拝聴できたことは有り難いことであった。教員養成系大学・学部が置かれた厳しい状況の中で、地域の子どもたちとの触れ合いを通して、学部学生がよりたくましく育ってほしいとの切なる願いのもと、講演を結ばれた。

平成10年度信州大学教育学部同窓会一般会計歳入歳出決算書

自 平成10年4月1日
至 平成11年3月31日

歳入合計 3,511,007円也
歳出合計 3,223,417円也
差引残額 287,590円也 11年度へ繰越

歳入の部

| 項目 | 予算額 | 決算額 | 増・△減 | 備考 |
|----------|-----------|-----------|----------|----------|
| 1 前年度繰越金 | 391,988 | 391,988 | 0 | |
| 2 会費 | 3,050,000 | 2,780,000 | △270,000 | 未納者27名 |
| 3 雑収入 | 20,000 | 39,019 | 19,019 | 利子・御祝儀 |
| 4 利息収入 | 300,000 | 300,000 | 0 | 基本財産利息より |
| 歳入合計 | 3,761,988 | 3,511,007 | △250,981 | |

歳出の部

| 項目 | 予算額 | 決算額 | 増・△減 | 備考 |
|---------|-----------|-----------|---------|----------|
| 1 会議費 | 600,000 | 386,424 | 213,576 | 総会・役員会等 |
| 2 事業費 | 1,070,000 | 1,017,585 | 52,415 | 会報・学部後援等 |
| 3 事務費 | 835,000 | 892,078 | △57,078 | 会報発送・印刷等 |
| 4 事務委託費 | 713,000 | 750,500 | △37,500 | 雇用費等 |
| 5 雑費 | 180,000 | 176,830 | 3,170 | 宛名シール等 |
| 6 予備費 | 363,988 | 0 | 363,988 | |
| 歳出合計 | 3,761,988 | 3,223,417 | 538,571 | |

ご挨拶



教育学部長 藤沢謙一郎

同窓会の皆様には、日頃から学部への教育・研究に対しご理解を賜り、ご支援とご協力をいただいておりますこと心からお礼申し上げます。

昨年は本学創立五〇周年を迎え、秋には盛大に記念事業を開催することができました。この事業に際してお寄せいただきました同窓生各位からのご厚情は、そのまま本学部への期待であり、学部運営に当たりその責務の重大さを改めて痛感しているところです。四月の教授会で記念事業の会計収支決算を行い、記念事業実施委員会を解散致しました。なお、記念事業とは別途にいただきました「学部後援費」(五五〇万円)の使途につきましては、五〇万円を記念事業の一環として「森づくり」(植樹)に追加支出し、残りを「国際交流事業支援」「就職活動事業支援」「地域貢献事業支援」として、平成十二年度から向こう五年間を目途に活動を開始したところであります。このうち「出前講座」と名付けた学部教官による地域の要望に依る出張講座は、今年四月からスタートさせ好評を得ております。開かれた学部として、このような目に見える形で地域への関わりが、創立五〇周年を機に多くの教官の賛同を得て実施できますことをうれしく思います。

さて、昨年の全国の教員養成学部における就職への就職率(臨採を含む)は、平均で三二%であり、昭和四五年の調査開始以来最低となりまして、本学部は四一%であり、全国上位六番目です。一方で、同窓生の皆様には信じられないことかと思いますが、教員養成学部の置かれた実状であります。今年度(平成十二年五月現在)は四九%で、昨年より高いわけですが、それでも五〇%に達していません。これは最近の児童生徒減に伴う教員採用者数の減少が原因であり如何ともし難く、教職への意欲をもつて努力している学生には就職難の冬の時代でもあります。しかしながら、この厳しい状況下において、本学部生の教職への夢が他大に比べて実現できておりますのも、各界で活躍されている同窓生各位の温かいご支援があつたことと、深く感謝を申し上げます。教職に限らず就職状況の悪化は、学生の意欲や学部の活力低下につながりかねませんので、今後とも就職問題については重点的に取り組んでいきますので、よろしくお願ひします。

二十一世紀は教育の時代と言われ、いま様々な議論がされていますが、不易流行をしつかりと見据えて、本学部の伝統を大切にしつつ、スタートさせた学部改革の成果を上げるため努力する所存ですので、今後ともご指導・ご支援のほどをお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご活躍とご健勝をご祈念申し上げます。

学部の新転任・退職教官の紹介

- 【平成十一年度新任教官】
 - 今田 里佳 先生(附属教育実践総合センター)
 - 杏林大学保健学部より新任
- 【平成十二年度新転任教官】
 - 永松 裕希 先生(教育学講座―障害児教育)
 - 神奈川県教育委員会より新任
 - 中西公一郎 先生(教育学講座―教育心理学)
 - 慶応義塾大学保健管理センターより新任

- 吉森佳奈子 先生(言語教育講座―国文学)
- 東京大学大学院総合文化研究科・教養部より転任

- 【平成十一年度退職教官】
 - 滝澤 貞夫 先生(言語教育講座)
 - 昭和四十七年四月着任、停年退職
 - 河内 晋平 先生(理数科学教育講座)
 - 平成二年四月着任、停年退職
 - 杵淵 恭宏 先生(生活科学教育講座)
 - 昭和四十七年四月着任、停年退職
 - 山田 敏 先生(教育学講座)
 - 昭和四十九年三月着任、停年退職
 - 【平成十一年度転出教官】
 - 都築 繁幸 先生(教育学講座)
 - 平成六年四月着任、愛知教育大学へ転出



青少年のための科学の祭典 (1999.10.23)

信州大学教育学部

創立五〇周年 記念事業報告

同窓会の皆様にご多大なご支援をいただいた学部創立五〇周年記念事業の概要、および記念植樹についてご報告したいと思います。

五〇周年記念事業の概要

平成十一年十一月十三日(土)に長野市の勤労者福祉会館ホールで学部創立五〇周年記念式典が厳かな雰囲気の中で盛大に挙行されました。学部内で五〇周年記念事業の準備が始まったのは数年前に遡ります。当時、日本の経済状況が極度に悪化していたため、五〇周年記念事業はささやかに行おうという考えでした。しかし、戦後の混乱期から、教育を立て直し、高い教育水準を支え、さらに発展させてきた原動力としての教育学部を思い、卒業生、学生、教官が一体となって、学部歴史に見合う立派な記念式典にしようという雰囲気が高まりました。学生も「まほろば祭」を五〇周年を祝う行事の一環にしたいと積極的になりました。

記念式典のみならず、五十年にわたる学部の歩みを祝うために、多様な催しを行いました。その幾つかをご報告いたします。

訂、記念行事企画の三つを主な内容とししました。

(一) これらの事業の成功を支援するため、同窓会と尚学会の代表者により「五〇周年記念事業後援会」が設立されました。「後援会」の

並々ならぬご努力と多数の同窓生や学生の保護者のご理解により、当初の目標額の五倍近くの寄付金が集まりました。この貴重な浄財は、記念式典の中で、後援会長(同窓会長)から学部長に記念品という形で贈呈されました。なお、その一部は今後、学生の海外派遣、就職活動、地域貢献(出前講座など)のために使わせていただく予定です。

(二) 十月二十三日(土)には記念事業の一環として学部体育館等を解放して「青少年のための科学の祭典」を開催(前頁に写真)。教官や学生の指導により、科学の魅力や楽しさを味わった児童・生徒は千人を超えたと聞いています。

(三) 記念式典の行われる前日(十一月十二日(金))には、多数の教官と学生がキャンパスの「森づくり」(記念植樹)を行いました。専攻やサークルなどで思い思いに植えた千本以上の木々がやがて森となる日が待たれます。

(四) 十一月十三日、学部、同窓会、尚学会の三者共催により記念式典が行われました。数千人に及ぶ教官が受付を担当し、刊行されたばかりの『五十年誌』と『同窓会員名簿』が並び、ご来賓、同窓生、教官、学生合わせておよそ四百名でホールが満席になりました。

(五) 「映像で綴る学部五十年」、数学科を卒業し、ニューヨークの日本航空連合会社長の小池民夫氏(六十六年三月卒)の特別講演「『出会い』―異文化・人種・言語の壁を越えて」、

音楽科の学生による「信濃の国」の合唱など、式典は感動の連続でした。

「まほろば祭」が同時進行でしたので、学生は式典会場とキャンパスの二手に分かれて参加する形になりました。「まほろば祭」は、生涯スポーツフェスティバル、シンポジウム、演劇、研究発表、スポーツ大会などで多彩で、外部からの参加者も多く、記念行事に相応しい内容でした。

(六) 式典に続き、ホテル国際21で祝賀会が盛大に開催されました。信州大学学長、長野県教育長、長野市長などの来賓を含め百八十名の賑やかな会となりました。終戦直後の混乱



学部50周年記念式典 (1999.11.13)

期、安保闘争の嵐、社会・教育事情の目まぐるしい変化、そして少子化時代など、杯を傾けながらの懐旧談は尽きず、祝賀会は盛り上がりました。

始まったばかりの学部改組の将来に夢を託しながら、創立五〇周年記念行事に幕が下りたのでした。関係者の皆様に深く感謝し、報告といたします。

記念植樹

学部五〇周年を記念し、昨年の十一月十二日の午前中、学生・教職員計四八〇名ほどの参加のもと、キャンパス内各地に記念植樹が実施されました。



学部50周年記念祝賀会 (1999.11.13)

この記念植樹は、信州大学教育学部らしい緑豊かなキャンパスの環境整備の一環として実施したのであり、教育的素材として使え、かつ人と自然、人と人の癒しの場となるような森づくりをめざしたものです。実施にあたっては、学内に記念植樹検討委員会が設置され、基本理念、実施方法などを検討し、最終的には教授会での了承のもとに行われました。

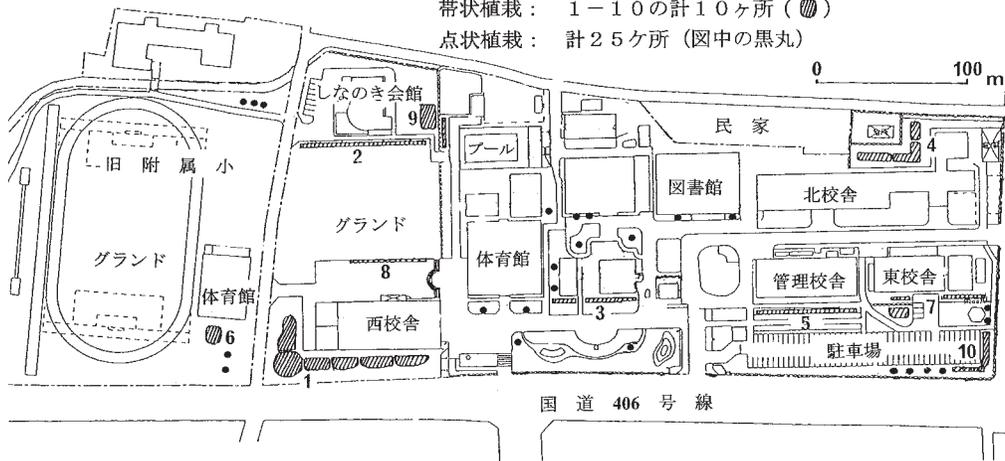
今回の記念植樹は、長野市付近に本来生えていた落葉広葉樹による森づくりを行うということで、植えた木はケヤキ、クヌギ、コナラ、ヤマモミジ、ウリカエデ、エノキ、ムラサキシキブ、ヤマブキなど冬にはすべて葉を落とす木ばかりです。ポットで二〜三年育てたこれらの苗を、当日には研究室、専攻、サークル等から応募いただいた計六〇のグループに分かれ、合計一、六〇〇本ほど植えました。

できるだけ多くの人に参加いただき、それぞれの身近な場所に植樹していただくということで、その場所は大学構内の各地にわたります(図)。あの程度の面積がとれる場所には「帯状植栽」という形をとり、西校舎南側、北校舎北側など計十箇所を選び、そこに多数の苗をまとめて植えました。それに対し、面積の十分とれない場所には数本ずつの「点状植栽」とし、計二五箇所に植えました。

昨年植えた苗は、今年の春に一斉に芽生え、現在のところ順調に育っています。五年後、十年後にこれらの木が立派に生育し、一層緑豊かなキャンパスになることが今から楽しみです。

学部五〇周年記念事業に拠金いただいた卒業生の方々、移植ゴテ・スコップなどの道具を手配いただきました泉林務部森林保全課、自然保護研究所の皆様は厚くお礼申し上げます。

帯状植栽： 1-10の計10ヶ所 (●)
 点状植栽： 計25ヶ所 (図中の黒丸)



国道 406 号線

記念植樹実施場所



記念植樹に参加した学生グループ (1999.11.12)

学部後援会報告

昨年の十一月、信大教育学部の創立五十周年を祝い記念式典が挙行されました。支援の記念事業後援会(以下、学部後援会と略称)をつくり、卒業生と在校生保護者(尚学会)の皆さんへきよ金をお願いしました。浄財をお寄せくださった方々へは、芳名簿を添えて事業報告書をお届けしましたが、ここで改めて概要報告をいたします。

事業経過の概要

平成十年八月 漆戸学部長と佐野同窓会長、若林尚学会長で学部後援会の設置案を練り、理事・監事の候補者を歴代同窓会役員、尚学会現役員から選出することになった。

平成十年九月 学部後援会設置の準備会開催。十一名の理事と二名の監事を委嘱した。

平成十年十一月 第一回学部後援会理事会(以下、理事会と略記)。今後の取り組みを協議。

平成十年十二月 第二回理事会。学部長より記念事業計画と予算案の説明で寄付総額三百万円の要請があった。協議の結果、関係者からの募金で賄い、二月末を第一次募金期間、一口五千円であるべく二口以上をお願いする。信州大学全体の記念事業募金も併せて実施するので、大学本部から七千人の依頼分を考慮し、とりあえず卒業生と尚学会員の約一万人を対象に募金活動開始とする。

平成十一年一月末 前学校の同窓会員と学部二六回卒業生まで、および尚学会員の合計約一万人に募金趣意書を送付。

平成十一年三月 第三回理事会。募金経過と集計結果、今後への対応を協議。第二次募金は学部二七回生以後の卒業生(約六千名)を対象に、五月末期限で実施することに決定。

平成十一年六月 第四回理事会。募金集計結果と今後の予定を協議。募金期限を八月末まで延期

し十月中旬には会計報告することに決定。

平成十一年七月 藤沢学部長へ佐野会長・若林副会長から後援金三百万円を一次金として贈呈。

平成十一年九月 第五回理事会。会計監査と決算書の承認。事業報告書と寄付者芳名簿の作成について協議。

平成十一年十月 佐野会長から藤沢学部長へ第二次後援金として五百五十万円を贈呈。きよ金者全員へ学部長の御礼の挨拶文と会計報告、事業報告、寄付者芳名簿を送付した。

平成十一年十一月十三日 創立五十周年記念式典の席上で、一次と二次金の合計八百五十万円の目録を佐野会長から学部長へ贈呈した。

会計の概要報告

募金額・延一千四百三名の方から一千七百六十万五千円の寄付を受けた。

支出額・三口以上の寄付者へは卒業生名簿(価五千元)、四口以上は記念誌(価六千元)を各一冊ずつ贈呈したのでその購入代と事業諸費を差し引いた残額(八百五十万)を学部後援費とした。なお、残金が三十二万一千三十七円生じたので理事会の決定通り二分して同窓会と尚学会会計へ繰り入れた。

浄財に改めて感謝

当初は予想もなかった多額のご寄付をいただき改めて感謝申し上げます。学部ではこの浄財を学生相談室の設置や国際交流の基金等、有効に活用させていただくことを約束しております。

はじめに学部長から要請のあった三百万円は、事業諸費も含めての額でしたので、同窓会費の値上げと関連させて処理できると考えていました。このような大掛かりな募金活動に発展するとは思いませんでした。慣れない事務局で、しかも大学本部と似通った後援会名を使ったり、大変ご迷惑をおかけしてしまいお詫び申し上げます。

就職状況

就職委員長 市澤 要三

新聞やテレビでは、今春の大学卒業者の就職率は昨年より更に悪くなったと報じている。わが学部においても、この十余年にわたり就職率は下降の状況が続いているので、それなりの覚悟をしてきたが、就職未定者が多いことは残念である。ところが、ここに掲載の卒業生進路状況の表にある数値では、昨年の同時期の表より就職率は向上しているのである。表の右下の就職率八一・七％は昨年より六・九ポイント高く、教員就職率五四・二％も昨年より六・九ポイント上がっている。この数字の上昇は喜ばしいことではあるが、その要因は教育職の臨時採用者が多くなっている点にある。表中の()内の数字は臨採を示し内数である。この数を引いた正規の採用者数は四割ほどで、昨年より二名減となる。やはり厳しい結果と言えよう。

最近の教員採用の現状は少子化現象、定年退職者の減少などにより、採用人数が少ないため、試験の倍率は一〇倍以上が普通であり、教科によつては一〇〇倍にも及ぶ場合もある。難関であるから、より早くからの試験対策が求められている。また、企業就職でも求職活動は三年次の二月頃から始まっている。

このような状況を踏まえ、就職委員会では昨年からはじめた「最近の経済情勢」「言葉のマナー」「マナーの実地指導」「採用試験体験談」等各種の講演、講習をより早く、より充実させて行う予定である。

同窓会の皆様には、学生の就職活動に関してご指導、ご鞭撻をお願いする次第である。

平成一一年度卒業生・修了生進路状況

平成一二年四月三〇日現在

Table with columns for '就職・進学先' (Employment/Advanced Study), '就職者' (Employed), '進路先' (Advanced Study), and '合計' (Total). Rows include '学部・大学院別' (Faculty/Graduate School) and '学部' (Faculty) with sub-categories like '小中学校教員養成課程' (Elementary/Middle School Teacher Training) and '大学院' (Graduate School).

(注) 1. () は臨採で内数、○は外国人留学生で内数

退官にあたって

元教育学部教授 杵淵 恭宏

文部教官として二十八年、学生として四年半、三十二年の長きを教育学部でお世話になりました。人生の半分を西長野に通ったことになりました。退官して改めて学部教官時代の出来事に想いを巡らしてみると、研究・学会発表等の思い出は多々ありますが、いま一つインパクトが少ないのです。先生方と行動を共にした行事、学生と一緒に汗を流した出来事が一番思い出されます。助手として勤務を始めた頃には、助手の先生方も大勢おられ、助手会を開いてはいろいろ悩みを語り合い、学部運営について議論しました。レクリエーションで春は山菜採り、秋にはきのこ採り、ニジマス釣りに出掛け、収穫したきこので作った鍋、ニジマスを味わいながら、いろいろ語り合ったのはつい先日のことのようです。その時の鍋の味は忘れ得ぬものの一つとして記憶に残っています。

授業は演習・実習が多い専攻(技術教育)でしたので、汗とほこりにまみれたの作業が多く大変でしたが、受講学生にも恵まれ、ゼミ、サークル活動の場でも学生と行動し、様々な行事に出掛け寝食を共にしたことが強く思い出に残っています。汗を流して仕事をすることを嫌い、軽視される昨今、汗をかいての作業の大切さが多少でも身に付いてくれたのではないかと思います。

同窓会の役も何度かささせていただきましたが、力不足のため、皆さんの期待に添うような仕事が出来ずに退官になりました。常に創設に努力された先輩の熱意、会に多くの期待を掛けてくださっている会員の皆様のことを思っただけで勤めてきました。我が同窓会の益々の発展を願っています。

信州大学
教育学部
同窓会

第十三回通常総会（通知）

日時

平成12年8月11日（金）

午前10時より

会場

長野市岡田町「ホテル信濃路」

次第

1. 開会宣言
2. 会長挨拶
3. 議長団選任
4. 議事録署名人の選任並びに書記の任命
5. 議事

第一号議案 平成11年度事業報告、歳入・歳出決算及び財産目録の承認について

第二号議案 平成12年度事業計画（案）及び歳入・歳出予算（案）の承認について

第三号議案 事務局の整備、およびそれに関わる会則の一部改正について

6. 来賓祝辞
7. 閉会宣言

記念講演会：12時より

祝賀懇親会：13時より

記念講演（一般公開）

「地球環境を守るための科学技術・教育とは？」

（財）地球環境産業技術研究機構

主席研究員

中原佳子 氏



「地球再生計画」が提唱され、更に一九

産業の高度化と経済成長、人口の増加に伴う地球温暖化効果ガス等に起因する気候変動が進行している。地球環境保全のため一九九〇年ヒューストンサミ

九七年COP-3（気候変動枠組条約第三回締約国会議、京都）で採択された京都議定書に規定する温室効果ガス（CO₂、メタン、亜酸化窒素、フロン等）の排出削減が緊急の課題となっている。そのためには、新エネルギー・省エネルギー技術開発、CO₂・メタン・亜酸化窒素の排出抑制、環境低負荷技術開発などの技術革新とともに、国民各層の更なる努力に頼らざるを得ない。本講演では、そのために行われている技術研究開発の概要、及び演者らが行った研究を紹介する。また、来世紀に生きる子どもたちが地球環境問題に関心を持ち、実行することが不可欠であることを、教育大学で教鞭をとっている立場からもお話ししたい。

【プロフィール】

一九六一年三月、信州大学教育学部理科課程卒業、一九七六年、通商産業省大阪工業技術試験所主任研究官、一九九〇年、機能応用化学部長、一九九三年、エネルギー・環境材料部長などを経て、一九九五年より現職。現在、同研究機構のプログラム研究推進室長、先端研究調査室長を兼任し、また日本化学会材料工学研究連絡委員会感性工学小委員会委員、大阪教育大学非常勤講師を併任。

さらに、一九九〇年以降、産業技術審議会専門委員、（社）近畿化学協会理事、産業技術審議会新エネルギー技術開発部会・省エネルギー技術開発部会及び地球環境技術開発部会合同企画委員会委員、池田市都市計画審議会委員、通産省中央鉱山保安協議会委員、産業技術審議会産業科学技術開発分科会・新材料分科会委員など、多数の役職を歴任。

【主な受賞】

「界面化学反応による無機質マイクロカプセルの調整・創製」に関わる研究等によって、一九八九年二月、（社）色材協会（論文賞）、同年六月、通商産業省研究業務優秀者表彰（工業技術院長賞）、一九九五年四月、科学技術庁官賞（研究功績者賞）などを受賞。

現在、大阪府池田市在住。

記念講演会終了後、「ホテル信濃路」において懇親会（会費 四、〇〇〇円）を開催します。

こちらへも多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。申し込みは同封の葉書で事務局までお願いいたします。